

作成日 1996年08月20日

改訂日 2024年04月01日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称（製品名）	水性ヤネフレッシュシーラー
供給者の会社名称	エスケー化研株式会社
住所	大阪府茨木市中穂積3-5-25
担当部門	技術研究所 技術管理チーム
電話番号	072-643-7100(代)、(夜間)072-643-6245
FAX番号	072-641-5212
e-mailアドレス	msds@sk-kaken.jp
緊急連絡先	上記に同じ
推奨用途	建築用塗料
使用上の制限	推奨用途以外の用途へ使用する場合は専門家の判断を仰ぐこと
整理番号	060039-00-08

2. 危険有害性の要約

【化学品のGHS分類】

引火性液体	区分に該当しない
急性毒性（経口）	分類できない
急性毒性（経皮）	分類できない
急性毒性（吸入：ガス）	分類できない
急性毒性（吸入：蒸気）	区分4
急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）	分類できない
皮膚腐食性／刺激性	分類できない
眼損傷性／刺激性	分類できない
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	
区分2（中枢神経系、腎臓、心臓、呼吸器）	
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	
区分2（中枢神経系、心臓、呼吸器）	
誤えん有害性	分類できない
水生環境有害性 短期（急性）	分類できない
水生環境有害性 長期（慢性）	分類できない
オゾン層への有害性	分類できない

【GHSラベル要素】

絵表示



注意喚起語

危険有害性情報

警告

- ・ 吸入すると有害
- ・ 臓器（中枢神経系、腎臓、心臓、呼吸器）の障害のおそれ
- ・ 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器（中枢神経系、心臓、呼吸器）の障害のおそれ

注意書き

《安全対策》

- ・ 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・ この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- ・ 取扱い後はよく手を洗うこと。
- ・ 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

《応急措置》

- ・ 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・ ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
- ・ 気分が悪いときは、医師の診断／手当てを受けること。

《保管》

- ・ 施錠して保管すること。

《廃棄》

- ・ 内容物や容器を、国際、国、都道府県、又は市町村の規則に従って、都道府県知事の許可を受けた専門の業者に廃棄を委託する。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

成分及び含有率（危険有害性物質を対象）

化学名又は一般名	CAS RN®	官報公示整理番号	濃度（%）	備考
エチレングリコール	107-21-1	優2-230	1～10	
イソプロピルアルコール	67-63-0	優2-207	0.1	

官報公示整理番号の前の記号：一種（第一種特定化学物質）、二種（第二種特定化学物質）、監（監視化学物質）、優（優先評価化学物質）

4. 応急措置

吸入した場合

- ・ 蒸気を大量に吸い込んだ場合、直ちに空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・ 呼吸が不規則か止まっている場合は人工呼吸を行う。おう吐物は飲み込ませないようにすること。直ちに医師の診断を受けること。必要に応じ酸素吸入を行うこと。
- ・ 蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

- ・ 付着物を布にて素早く拭き取ること。
- ・ 衣服を着用している部分に付着した場合、着用品を脱ぎ、水や石鹸にて洗浄すること。
- ・ 大量の水及び石鹸又は皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とすこと。
- ・ 外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪いときには、医師の診断をうけること。

眼に入った場合

- ・ 直ちに清浄な流水で15分以上洗う。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・ まぶたの裏側まで完全に洗うこと。
- ・ すぐに痛みがなく視力に影響がなくても障害が遅れて現れることがあるので、出来るだけ早く医師の診断を受けること。

飲み込んだ場合

- ・ 誤って飲み込んだ場合は、安静にして直ちに医師の診断を受ける。
- ・ おう吐物は飲み込ませないこと。
- ・ 医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

- ・ 水、炭酸ガス・泡・粉末消火剤、乾燥砂

使ってはならない消火剤

- ・ 情報なし

特有の消火方法

- ・ 周辺火災に対応して、消火活動を行うこと。

消火活動を行う者の特別な保護具と予防措置

- ・ 消火作業の際には、適切な保護具（耐熱性着衣等）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・ 作業の際には適切な保護具（手袋、保護マスク、保護衣、ゴーグル等）を着用する。
- ・ 周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。

環境に対する注意事項

- ・ 河川、排水路、湖沼、水路に流出し環境への影響を及ぼさないように注意する。
- ・ 付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処理すること。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- ・ 流出物は密閉出来る容器に回収し、安全な場所に移す。
- ・ スコップ、ウエス等で回収する。大量の流出には盛土などで流出を防ぐ。水での洗浄なども、河川等への排出、環境汚染を引き起こす恐れもあり注意する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- ・ 取扱い場所は関係者以外、立ち入り禁止とする。
- ・ 換気の良い場所で取扱う。
- ・ 容器はその都度密栓する。
- ・ 密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業する。

安全取扱注意事項

- ・ 缶の取手は手下げ用であり、ロープ等で吊り下げる事はしないこと。

接触回避

- ・ 皮膚、粘膜、着衣に触れたり、目に入らないよう、又、吸入しないように、適切な保護具を着用する。

衛生対策

- ・ 取扱い後は、洗顔、手洗い及びうがいを行うこと。
- ・ この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

保管

安全な保管条件

- ・ 直射日光を避け、換気の良い場所に一定の管理の出来る場所を定め、施錠して保管する。
- ・ 本品は業者専用品（業務用）であり、部外者や子供が出入りしない場所に保管する。

- ・凍結の恐れのある場所での保管はしないこと。
- ・雨のかかる場所や湿気の多い所での保管は避けること。缶が腐食すると内容物が漏れ出すことがある。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度、管理濃度（職業的ばく露限界値、生物学的限界値）

成分名	管理濃度	許容濃度	八時間濃度基準値	短時間濃度基準値
エチレングリコール	—	C 100ppm	10ppm	50ppm
イソプロピルアルコール	200ppm	200ppm	—	—

設備対策

- ・屋内作業の場合には、作業者が直接ばく露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者が蒸気などのばく露を避けられるような設備にすること。

保護具

呼吸用保護具

- ・状況に応じた適切な呼吸用保護具を着用する。
- ・高濃度の化学物質を取り扱う場合は、送気マスクの装着を検討する。
- ・作業者がガスや蒸気にばく露される場合は呼吸用保護具（有機ガス用防毒マスク等）の着用を検討する。
- ・防毒マスクの選択については、以下の点に留意する。
 - 酸素濃度が18%未満の場所では使用しない。
 - 作業者が粉じんにはばく露される環境で防毒マスクを使用する場合には、防じん機能を有する防毒マスクを使用する。
 - 防毒マスクは、登録式検定機関が行う型式検定に合格した、作業に適した性能及び構造のものを選ぶ。その際、取扱説明書等に記載されているデータを参考にする。

手の保護具

- ・作業者が皮膚腐食性/刺激性等、皮膚に影響を与える物質または皮膚から吸収されて健康障害を起こす可能性のある化学物質にばく露される場合は、保護手袋を着用する。
- ・不浸透性の保護手袋の着用を検討する。
- ・保護手袋の選択については、以下の点に留意する。
 - 取扱説明書に記載されている耐透過性クラス等を参考として、作業に対して余裕のある使用時間を設定し、その時間の範囲内で保護手袋を使用する。

眼、顔面の保護具

- ・取扱いには保護メガネを着用すること。

皮膚及び身体保護具

- ・取扱う場所には、皮膚を直接曝させないような衣類を着けること。また化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。

特別な注意事項

- ・情報なし

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 常温にて液状
色	: 乳白色
臭い	: 僅かに溶剤臭
融点／凝固点	: 情報なし
沸点又は初留点及び沸点範囲	: 100.0℃
可燃性	: なし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	: 情報なし
引火点	: なし
自然発火点	: 情報なし
分解温度	: 情報なし
pH	: 3.0～4.0
動粘性率	: 情報なし
溶解度	: 情報なし
n-オクタノール／水分分配係数	: 情報なし
蒸気圧	: 情報なし
密度及び／又は相対密度	: 0.960 ～1.060 (25℃)
相対ガス密度	: 情報なし
粒子特性	: 情報なし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 情報なし
化学的安定性	: 標準的条件での反応性はない
危険有害反応可能性	: 情報なし
避けるべき条件	: 情報なし
混触危険物質	: 情報なし
危険有害な分解生成物	: このものは燃えないが塗膜が燃えた場合、CO等の有害ガスを発生。
その他の危険性情報	: 情報なし

11. 有害性情報

組成物質有害性（危険有害物質を対象）

物質名	急毒/経口 (LD50:)	急毒/経皮 (LD50:)	急毒/ガス (LC50:)	急毒/蒸気 (LC50:)
エチレングリコール	該当しない 4000.00	該当しない 10600.00	—	—
イソプロピルアルコール	該当しない 3437.00	該当しない 4059.00	—	該当しない 29512.00

物質名	急毒/粉塵 (LC50:)	皮膚腐食	眼損傷	呼吸器	皮膚感作	生殖細胞	発がん
エチレング リコール	—	区分 3	区分 2 B	—	—	該当しない	該当しない
イソブ ロピ ルアルコール	—	該当しない	区分 2 A-	—	—	該当しない	該当しない

物質名	生殖毒性	臓器/単回	臓器/反復	誤えん
エチレング リコール	該当しない	区分 1	区分 1	—
イソブ ロピ ルアルコール	区分 2	区分 1	区分 3	区分 2

＜略記号＞

該当しない：区分に該当しない

急毒/経口：急性毒性/経口 (mg/kg) 急毒/経皮：急性毒性/経皮 (mg/kg) 急毒/ガス：急性毒性/ガス (ppm)

急毒/蒸気：急性毒性/蒸気 (ppm) 急毒/粉塵：急性毒性/粉塵、ミスト (mg/l) 皮膚腐食：皮膚腐食性/刺激性

眼損傷：眼に対する重篤な損傷性/刺激性 呼吸器：呼吸器感作性 皮膚感作：皮膚感作性

生殖細胞：生殖細胞変異原性 発がん：発がん性 臓器/単回：特定標的臓器毒性（単回ばく露）

臓器/反復：特定標的臓器毒性（反復ばく露） 誤えん：誤えん有害性

12. 環境影響情報

生態毒性	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし

組成物質有害性（環境有害物質を対象）

物質名	水生環境有害性 短期（急性）	水生環境有害性 長期（慢性）	オゾン層への有害性
エチレング リコール	該当しない	該当しない	—
イソブ ロピ ルアルコール	該当しない	該当しない	—

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

- ・ 廃塗料、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理する。
- ・ 容器、機器装置等を洗浄した排水は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。
- ・ 廃水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても、廃棄物の処理および清掃に関する法律および関係する法規に従って処理を行うか、委託すること。

汚染容器および包装

- ・ 環境に配慮し、空容器は内容物を完全に除去後、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
- ・ 許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をすること。

14. 輸送上の注意

国連番号	—
品名（国連輸送名）	—
国連分類	—
容器等級	—
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	取扱い及び保管上の注意の項に従うこと。 容器に漏れのないことを確め、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。
国内規則の規制情報	
陸上輸送	消防法、労働安全衛生法、毒劇物法に該当する場合は、それぞれの該当法律に定められる運送方法に従う。
海上輸送	船舶安全法に定めるところに従う。
航空輸送	航空法の定めるところに従う。
応急措置指針番号	—

15. 適用法令

労働安全衛生法	表示対象物質、通知対象物質 皮膚等障害化学物質等
毒物及び劇物取締法	該当せず
消防法	非危険物
化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）	該当せず
化学物質審査規制法（化審法）	優先評価化学物質
船舶安全法	該当せず
航空法	該当せず

16. その他の情報

主な引用文献

SDS用化学物質データベース	一般社団法人	日本塗料工業会
SDS・ラベル作成ガイドブック〔混合物用（塗料用）〕	一般社団法人	日本塗料工業会
GHS対応ガイドライン	一般社団法人	日本化学工業協会
GHS危険有害性分類結果（NITE）公表データ	独立行政法人	製品評価技術基盤機構（NITE）

化学物質総合情報公表データ
国際化学物質安全カード（ICSC）
GHS対応モデルラベル・モデルSDS情報

独立行政法人 製品評価技術基盤機構（NITE）
厚生労働省 職場のあんぜんサイト

〔注意〕

本データシートは、作成時または改訂時において、製品およびその組成に関する最新の情報（危険有害性情報・取扱情報等）を集めて作成しておりますが、全ての情報を網羅したものでなく、新たな情報を入手した場合には追加・修正を行い改訂致します。また、本データシートに記載のデータは、その製品を代表する値であり、安全性および品質を保証するものではありません。

本製品のご使用に当たりましては、関係法令に従うと共に使用者において安全性の確認を十分に行って下さい。

本データシートは、日本国内法規を基準に作成したものです。

本データシートにおいて労働安全衛生法の通知対象物質の含有量が幅表示の場合は、営業秘密である場合を含みます。